

～「R1JAなのはな米品質向上運動」実施中～  
なのはな米1等比率95%以上を継続！！



# 令和2年産なのはな米の高品質・安定生産にむけた土づくり！

なのはな農協管内では、土壌分析の結果、全体的にケイ酸とカリが不足しています。また、腐植が不足している地域もみられます。ケイ酸質資材を中心に施用し、地力を高めましょう。

## 1 土づくり

～土づくりの3つの要：土づくり資材の散布、有機物の施用、深耕の実施～

### ■土壌改良(土づくり)資材の施用

#### ケイ酸による米の品質向上効果

- ① 稲体のケイ酸濃度を高めることで、稲体の姿勢がよくなり、光合成能力を高く保ち、登熟や品質が向上します。
- ② 割粃が減り、斑点米を軽減します。
- ③ 茎葉や根が強くなり倒伏を軽減します。
- ④ ごま葉枯病(写真)等の病気に対する抵抗力が向上します。



近年ごま葉枯病の発生が増加傾向となっています。土壌養分としては、ケイ酸、カリ、鉄分などの減少により発生が増加します。

写真 ごま葉枯病の病斑

#### (1) ケイ酸質資材の継続的施用

ケイ酸質資材の施用を中断するとケイ酸含量が急激に低下します。土壌改良資材(表1)の 100～200 kg/10a の継続的な施用に取り組みましょう。

#### (2) カリの補給

管内では、砂壤土・壤質土を中心にカリの不足しているほ場が見られます。

- ① カリが不足している土壌では、カリを補給することで増収が見込まれます。秋春の土壌改良資材や6月のカリ質肥料(エスアイ加里らくだ等)を施用しましょう。
- ② 堆肥や発酵鶏糞にはカリ等の養分が含まれるので、積極的に施用しましょう(表2)。

表1 土壌改良資材の施用の目安

資材名	主成分		施用量
珪酸石灰(砂、粒)	ケイ酸	31%(砂) 30%(粒)	200kg/10a
	アルカリ分	48%(砂) 45%(粒)	
シリカロマン	ケイ酸 アルカリ分	25% 45%	100kg/10a
シンキョーライトP	ケイ酸	63.3%	60kg/10a

### ■有機物の施用

- (1) 土壌の腐植を増やし保肥力を高めるには、有機物の補給が有効です(表2)。発酵鶏糞の施用や地力増進作物の作付けを積極的に進めましょう。
- (2) 水稻収穫後、なるべく早い時期に稲わらをすき込み、腐熟を進めましょう。

### ■深耕の実施と排水性の改善

- (1) 秋耕と春耕の2回起こしで、現状+3cmの深耕をしましょう。
- (2) 秋耕後の排水溝の設置や、心土破碎により水はけをよくしましょう。

表2 堆肥の施用の目安

堆肥種類	施肥量
	10a 当たり
牛ふん堆肥	1～2t
豚ふん堆肥	1～2t
発酵鶏糞	100～150kg

## 2 秋の雑草対策

～次年度に向けて：雑草が多く発生したほ場では秋に雑草対策！！～

### ■本田の雑草管理

- 石灰窒素 ヒエの発芽促進によりヒエを枯らし、翌年の発生密度を減らします。
- プリグロックス 翌年のヒエ、クサネム、アメリカセンダングサ等の1年生雑草の発生密度を減らします。
- ラウンドアップマックスロード 塊茎を形成する雑草にも浸透移行し、発生密度を抑えます。

### ■畦畔の雑草管理

#### ○カソロン粒剤 6.7

秋冬期～春期に、畦畔に散布することにより、6月頃までイネ科雑草の発生を抑え、カメムシの餌をなくし、カメムシの越冬世代と次世代以降の発生密度を低減します。

\* 大麦等畑作物作付けほ場の畦畔には使用できません。

秋の農作業安全運動実施中！(10月20日まで)